



血管が新たに作られる 「超音波療法」とは

先月20日、これまでの医療ではなしえなかった画期的な治療法を東北大学病院・循環器内科の下川宏明教授の研究グループが発表した。

「研究の結果、血の巡りの悪い部分に超音波で刺激を与えると、血管を増やす物質が出て、毛細血管が増えることがわかりました。そのメカニズムを利用した治療法です」

というのは東北大学病院・同研究グループの伊藤健太准教授。太い血管が作られたり、血管の詰まりを治せるようになるわけではないが、細かい血管がたくさんできるようになる。この最

新治療、どのような症状に効くの？

「いまのところ、薬や手術といった治療法では十分に効果の得られない狭心症の患者さんが、この治療の対象です。具体的には、ある特殊な条件の超音波を5分間隔で20分ずつ計3回心臓に当てる治療を、1日おきに1週間に3日行います」

治療中、患者は寝ているだけ。薬や手術と違い、身体への負担は少ない。

「この超音波治療で使う機械は、基本的にお腹の赤ちゃんを診る検査機械と同じもの。当てるエネルギーの強さもほぼ同じです。痛みはなく、副作用や



寝たまま1時間半程度で1回の治療は終了(写真提供/東北大学)

合併症もいまのところありません」

この超音波治療は東北大学病院などで臨床試験が進められ、17年に国の承認を得る計画だとか。将来的に狭心症以外に使われることは？

「長い距離を歩けないほどの、足の血管の動脈硬化にも効果があり、これから研究が進んでいくでしょう」



超音波治療研究グループの代表、東北大学病院循環器内科の下川宏明教授

『週間女性』 9月30日号 (2014年)
※転載許可取得済み